

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日までの1年
 定時株主総会 毎年6月に開催します。
 剰余金の配当の基準日
 期末配当 3月31日
 中間配当 9月30日
 定時株主総会の基準日 3月31日
 その他必要があるときは、予め公告して基準日を定めます。

株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部

事務取扱場所 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
 郵便物送付先 168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部

電話お問い合わせ先 ☎ 0120-288-324 (フリーダイヤル)
 受付時間は9:00~17:00 (土日祝日を除く)

特別口座に関する事務取次所 みずほ証券株式会社本店、全国各支店および営業所
 プラネットブース(みずほ銀行内の店舗)
 みずほ信託銀行株式会社本店および全国各支店

公告方法 電子公告とし、当社ホームページに掲載いたします。
 なお、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、大阪市において発行する産業経済新聞に掲載いたします。
 〈ホームページ〉 <http://www.kurimoto.co.jp>

単元株式数 1,000株
 上場証券取引所 東京証券取引所
 証券コード 5602

■ 1,000株未満の株式をお持ちの株主様へ

当社の単元株式数(売買単位)は、1,000株です。
 一方、単元未満株式(1~999株)につきましては、証券市場で売却することはできませんが、当社に対して買取を請求して売却できる制度をご利用いただけます。お手続き等の詳細は、お取引の証券会社もしくは、上記のみずほ信託銀行までお問い合わせください。

■ 株式に関するお問い合わせ先

- 証券会社に株式をお預けの株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求、配当金の受け取り方法の変更等、株式に関する各種お手続きは、お取引の証券会社にお問い合わせください。
- 証券会社に株式を預けておられない株主様の場合、当社がみずほ信託銀行に開設しております「特別口座」にて株式を管理しています。特別口座の株式は、単元未満株式の買取請求を除き売買できませんので、証券会社に株主様名義の口座を開設し、株式を振替されることをお勧めいたします。お手続き等の詳細は、特別口座の口座管理機関である、上記のみずほ信託銀行へお問い合わせください。
- 未払配当金のみ、みずほ銀行全国本支店でもお取扱いいたします。

ホームページで最新情報を即座に発信

<http://www.kurimoto.co.jp>



KURIMOTO REPORT 2014

<http://www.kurimoto.co.jp/csr/>



株式会社 栗本鐵工所



第119期 中間報告書

平成26年4月1日～平成26年9月30日

コーポレートメッセージ

CORPORATE MESSAGE

モノづくりで未来を創る、 クリモト

クリモトは、明治42年の創業以来、
お客様満足第一のモノづくりに徹して、社会のインフラ整備、
ライフラインや産業設備の拡充に貢献してきました。
これからも、100年で培った技術力にさらに磨きをかけ、
独自の技術と製品・サービスで社会の生命線と人々の暮らしを守り、
社会に貢献し続けたい。
そして、チャレンジ精神・創造力溢れるオンリーワン企業へ。
それが、クリモトの願いです。

企業理念

CORPORATE PHILOSOPHY

私達は水と大気と生命(いのち)の惑星、地球を大切にし、
人間社会のライフラインを守ります。

私達は「安心」という価値を提供し、
社会と顧客の信頼に応えます。

私達は顧客の声をよく聴き、顧客から学び、
独自の技術を深め、新しい技術を加え、
顧客にオリジナルな「最適システム」を提案します。

私達はモノづくりを通して、
社員の幸せと人間社会の幸せを目指します。

私達はこれらの実践のため、
コンプライアンス経営を徹底し、
継承と変革の調和を計り、個性と創意を尊重し、
企業の発展と社会への貢献に努めます。

CONTENTS

ステークホルダーの皆様へ	3
事業の概況	4
事業部別営業品目の紹介	5
財務ハイライト	7
連結財務諸表	8
株式の状況	9
会社概要	10

中期3ヵ年経営計画の最終年度を迎え、計画達成に向け、クリモトグループの総力をあげて取り組んでおります。

株式会社 栗本鐵工所 代表取締役社長 **福井秀明**



第119期中間期の概況をご報告いたします

株主の皆様におかれましては、平素より当社グループの事業運営に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社グループの第119期中間期(平成26年4月1日から平成26年9月30日まで)の事業概要をとりまとめましたので、ご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、消費税率の引き上げに伴う駆け込み需要の反動は見られるものの、経済対策や金融緩和策の効果により、輸出や生産の持ち直し、企業収益や雇用環境の改善など、景気回復の兆しが見られる一方で、円安による原材料や原油価格の上昇、新興国の経済成長鈍化やウクライナ問題等の政情不安に伴う海外景気の不振懸念等、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような状況の中で、当社グループの当第2四半期連結累計期間の業績は、鉄管部門では出荷量が減少したこと、機械部門の粉体機器を中心に大型案件が減少したことなどにより、売上高は前第2四半期連結累計期間比4,645百万円減収の41,954百万円となりました。

利益面ではコストダウンに注力しましたが、鉄管・機械部門における減収の影響などにより、営業利益は191百万円(前第2四半期連結累計期間比1,770百万円減益)、経常利益は13百万円(前第2四半期連結累計期間比1,576百万円減益)となりました。四半期純利益は、固定資産売却益の計上、繰延税金資産の積み増しに伴い法人税等調整額を戻し入れたことにより、31百万円(前第2四半期連結累計期間比1,799百万円減益)となりました。

現中期3ヵ年経営計画の成果と、次期中期3ヵ年経営計画について

現在、当社グループは当平成26年度を最終年度とする中期3ヵ年経営計画を推進しております。おかげさまで、当中期3ヵ年経営計画における大きな目標でありました「企業グループとして1,000億円超の

事業規模」につきましては、昨年度に引き続き本年度も達成できる見込でございます。加えて、「財務の健全化」という経営課題につきましても、平成26年9月末現在で有利子負債残高348億円、自己資本比率38.4%(ともに連結)と、当初の目標値(有利子負債370億円未満、自己資本比率38.0%)を前倒しで達成することができました。さらには、事業部門の壁を越えた全社横断プロジェクトとして推進しております、コンポジット複合材料(炭素繊維強化プラスチック材)分野や二次電池製造プロセス分野の研究開発など、新たな事業収益の種が着実に芽吹きつつあります。これらの当中期3ヵ年計画に於ける成果の数々は、株主の皆様はじめステークホルダーの方々によるご支援の賜物と感謝申し上げます。

これらの状況を踏まえまして、現在、平成27年度からスタートいたします次期中期3ヵ年経営計画を鋭意策定中でございます。「国際社会の要請に応える企業を目指して」という長期ビジョンのもと、既存の事業領域では更なる顧客満足を追求しつつ、新たな事業領域や市場での付加価値を生み出すことが出来るよう、事業部門毎に議論を重ねております。この次期中期3ヵ年経営計画につきましては、来春頃にステークホルダーの皆様へご披露させていただき予定でございます。

配当について

なお、当社グループは、株主の皆様に安定的・継続的に配当を実施することを基本方針といたしております。

この度、当期の業績および経営環境等を総合的に判断いたしました結果、中間配当金につきましては1株あたり2円とさせていただきますので、ご了承のほどお願い申し上げます。

当社グループといたしましては、株主の皆様のご期待に沿うべく、今後も総力をあげてグループの持続的成長を実現してまいります。

株主の皆様におかれましては、これからもクリモトグループの活動に、より一層のご支援ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

以上

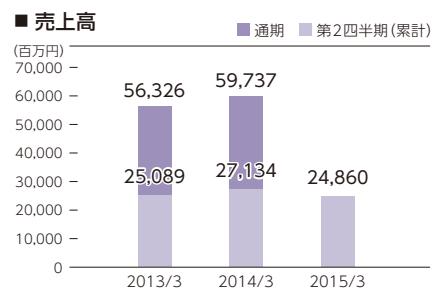


パイプシステム事業

売上高 **248億円**

「パイプシステム事業」は、売上高につきましては、鉄管部門において国土交通省より平成26年2月より適用される公共工事設計労務単価が決定・公表されたことに伴う発注遅れにより出荷が低調に推移したことなどで、前第2四半期連結累計期間比2,274百万円減収の24,860百万円となりました。

営業利益につきましては、高付加価値製品の拡販、コストダウンに注力したものの減収による減益の影響が大きく、前第2四半期連結累計期間比1,079百万円減益の445百万円の営業利益となりました。



機械システム事業

売上高 **72億円**

「機械システム事業」は、売上高につきましては、第1四半期に引き続き機械部門の粉体機器で大型プラント案件が減少したことに加え、鍛圧機においても大型物件の出荷が減少したことなどにより、前第2四半期連結累計期間比2,730百万円減収の7,274百万円となりました。

営業利益につきましては、素形材部門、化学装置部門において利益率が改善しましたが、減収による減益の影響が大きく、前第2四半期連結累計期間比122百万円減益の138百万円の営業損失となりました。

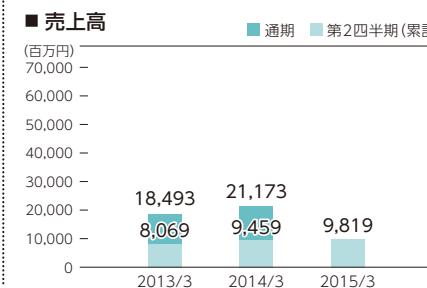


産業建設資材事業

売上高 **98億円**

「産業建設資材事業」は、売上高につきましては、化成品部門において電力向け製品を中心に前年度のような前倒し出荷等もなく低調に推移しましたが、建材部門において大阪、首都圏を中心にビル関係、マンション関係の案件が堅調に推移し空調製品を中心に出荷が増加したことに加え、前第2四半期連結累計期間において連結子会社が増加していることなどで売上が増加し、前第2四半期連結累計期間比360百万円増収の9,819百万円となりました。

営業利益につきましては、鋼材、樹脂をはじめとした原材料価格が高止まりしていることに加え、比較的利益率の高い製品の出荷比率が減少したことなどで、前第2四半期連結累計期間比410百万円減益の31百万円の営業損失となりました。



鉄管
事業部



人々の暮らしを地下で支える水道管やガス管。身近な暮らしの場面から大きな役割を担うこれらのダクタイル鉄管は、大都市・郊外・農村などあらゆる所で活躍しております。

営業品目 | ダクタイル鉄管(直管、異形管、接合部品)、耐摩耗管

バルブ
事業部



浄水場などの官需分野から、発電所・製鉄所・プラントなどの民需分野、海外分野向けのバルブを多数取り扱っております。

営業品目 | バタフライ弁、ソフトシール仕切弁、スリーブ弁、貯水槽用緊急遮断弁、各種調整弁、高炉用弁類、スプリングラー用 予作動式(負圧湿式)流水検知装置

建材
事業部



幅広い製品ラインナップと迅速なデリバリーで皆様の期待にお応えしております。

営業品目 | スパイラルダクト、各種フレキシブルダクト、サイレントフレックス、各種消音製品、ステンレスダクト、スーパースパイラル、ワインディングシース、ポリエチレンシース、ワインディングパイプ、中空スラブ、各種耐震製品、梁貫通孔補強筋(スーパーハリーZ)、段ボールダクト(コルエアダクト)、各種遮音パネル・吸音型防音パネル、透光型吸音パネル(ビューゾーン)

化成品
事業部



FRPが持つ多機能で自由度の高い特性を活かし、真に信頼される製品づくりを目指して、広く社会基盤の整備に貢献してまいります。

営業品目 | 強化プラスチック複合管(FRPM管)、強化プラスチック複合板(FRPM板)、FRPコア、各種合成樹脂成形品

機械
事業部



さまざまな産業の生産ラインを支える産業機械設備は各種製品を世に送り出す一翼を担っています。単体設備からトータルエンジニアリングまで、幅広く社会に貢献してまいります。

営業品目 | 微粉碎機、分級機、造粒機、乾燥機、焼成機、混合・混練・分散機、反応機、溶剤回収装置、二次電池材料製造装置、各種産業機械、試験機械、プラントおよびシステム設備、鍛造プレス、ベンディングロール、鍛圧機各種周辺装置

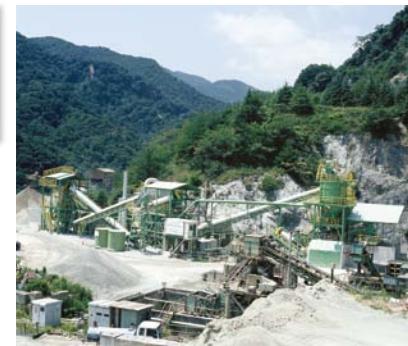
化学装置
事業部



クリモトグループで培った単品機器技術と各種プラントのエンジニアリング技術を集結し、化学・資源・エネルギー等関連設備の総合的なエンジニアリングサポートサービスを提供してまいります。

営業品目 | プラントエンジニアリング事業/各種プラントの設計、製作、調達、建設、試運転およびメンテナンス

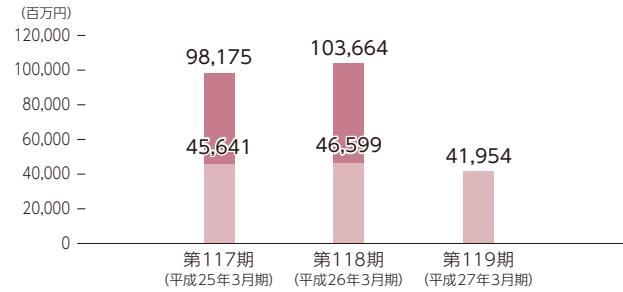
素形材
エンジニアリング
事業部



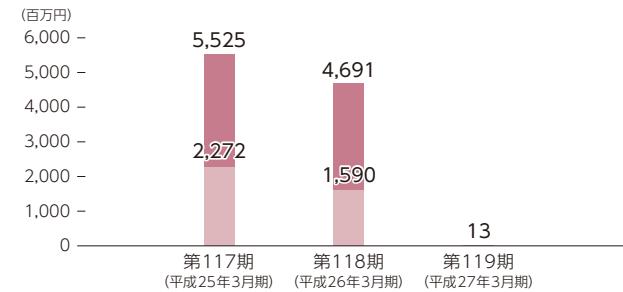
破碎技術・材料技術等の固有技術を活かした素形材エンジニアリング事業部の商品群は、骨材資源業界・鉄鋼業界をはじめとする各種産業分野にて活躍しております。

営業品目 | 破碎機、粉砕機、搬送機械、耐摩耗铸件、耐熱铸件、耐摩耗ポンプ、鉄道用プレーキディスク

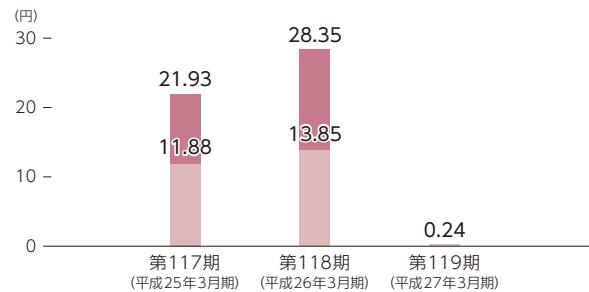
売上高



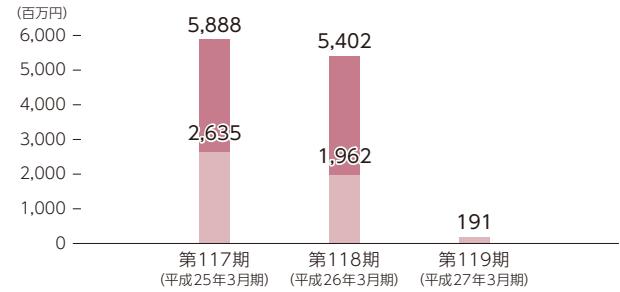
経常利益



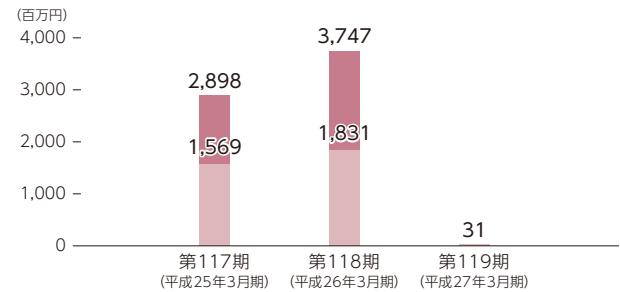
1株当たり四半期(当期)純利益



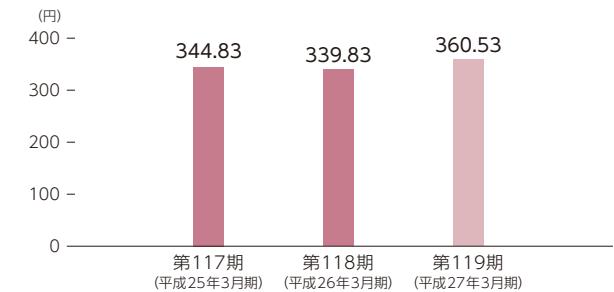
営業利益



四半期(当期)純利益



1株当たり純資産額



四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 連結会計期間末	前連結会計 年度末
	平成26年9月30日現在	平成26年3月31日現在
(資産の部)		
流動資産	71,111	79,877
固定資産	50,179	49,144
有形固定資産	33,505	33,009
無形固定資産	633	619
投資その他の資産	16,040	15,514
資産合計	121,291	129,021
(負債の部)		
流動負債	64,926	72,740
固定負債	9,367	10,972
負債合計	74,294	83,713
(純資産の部)		
株主資本	48,308	47,503
資本金	31,186	31,186
資本剰余金	6,959	6,959
利益剰余金	11,254	9,749
自己株式	△ 1,092	△ 392
その他の包括利益累計額	△ 1,718	△ 2,581
其他有価証券評価差額金	3,134	2,630
退職給付に係る調整累計額	△ 4,852	△ 5,211
少数株主持分	407	386
純資産合計	46,997	45,307
負債・純資産合計	121,291	129,021

四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 連結累計期間	前第2四半期 連結累計期間
	平成26年4月1日から 平成26年9月30日まで	平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで
売上高	41,954	46,599
売上原価	32,279	35,383
売上総利益	9,675	11,216
販売費及び一般管理費	9,483	9,254
営業利益	191	1,962
営業外収益	290	298
営業外費用	468	670
経常利益	13	1,590
特別利益	26	—
特別損失	0	0
税金等調整前四半期純利益	39	1,590
法人税、住民税及び事業税	62	87
法人税等調整額	△ 76	△ 348
法人税等合計	△ 13	△ 260
少数株主損益調整前四半期純利益	53	1,850
少数株主利益	21	19
四半期純利益	31	1,831

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 連結累計期間	前第2四半期 連結累計期間
	平成26年4月1日から 平成26年9月30日まで	平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,883	518
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,287	△ 1,129
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,906	△ 2,822
現金及び現金同等物に係る換算差額	24	4
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 6,286	△ 3,428
現金及び現金同等物の期首残高	24,577	19,089
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	175	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	18,466	15,660

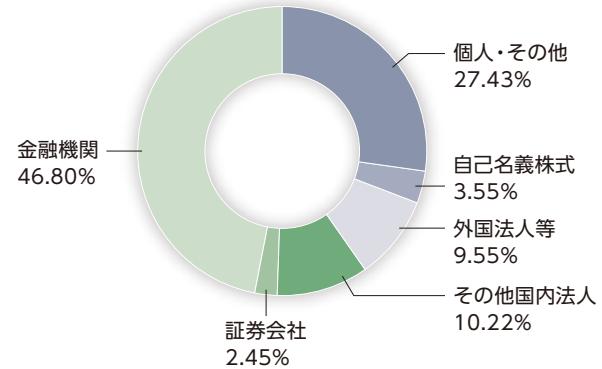
株式の状況

株式の状況 (平成26年9月30日現在)	
発行可能株式総数	393,766,000株
発行済株式の総数	133,984,908株
単元株式数	1,000株
株主数	10,354名

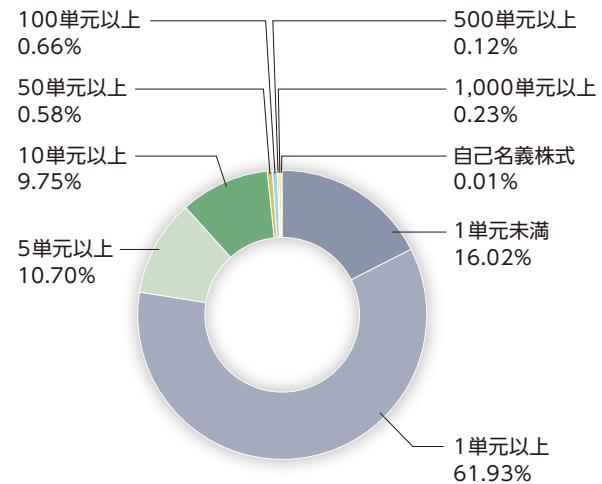
大株主(上位10名) (平成26年9月30日現在)		
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
太陽生命保険株式会社	12,090	9.35
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	8,127	6.28
日本生命保険相互会社	7,200	5.57
株式会社りそな銀行	4,440	3.43
株式会社みずほ銀行	3,623	2.80
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 みずほ銀行口 再信託受託者 資産管理サービス信託銀行株式会社	3,200	2.47
岩谷産業株式会社	2,898	2.24
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	2,897	2.24
株式会社三井住友銀行	2,720	2.10
THE CHASE MANHATTAN BANK .N. A. LONDON SECS LENDING OMNIBUS ACCOUNT	2,249	1.74

(注) 持株比率は自己株式(4,757,341株)を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況 (平成26年9月30日現在)



所有株式数別株主分布状況 (平成26年9月30日現在)



会社概要

会社の概要 (平成26年9月30日現在)

社名	株式会社 栗本鐵工所
英文社名	Kurimoto, Ltd.
創立	明治42年2月2日
設立	昭和9年5月10日
資本金	31,186,098,159円
従業員数	1,359名(単体) 2,018名(連結)

役員 (平成26年9月30日現在)

代表取締役社長	福井 秀明
代表取締役専務	申田 守可
常務取締役	澤井 幹人
取締役	岡田 博文
取締役	新宮 良明
取締役	屋地 幹生
社外取締役	玉出 善紀
常勤監査役	江村 利次
常勤監査役	泉 正三
社外監査役	赤松 秀世
社外監査役	小林 倫憲
常務執行役員	天谷 光郎
執行役員	斎藤 直史
執行役員	村田 実
執行役員	小島 眞也
執行役員	生田 伸
執行役員	菊本 一高
執行役員	近藤 一晴
執行役員	福井 武久
執行役員	佐藤 尚人
執行役員	藤本 幸隆

クリモグループ

国内関係会社

- クリモロジスティクス株式会社
- 栗本商事株式会社
- ヤマトガワ株式会社
- 北海道管材株式会社
- 株式会社本山製作所
- 株式会社佐世保メタル
- 株式会社ケイエステック
- 八洲化工機株式会社
- 日本カイザー株式会社
- 株式会社クリモビジネスアソシエイツ

海外関係会社

- 栗光股份有限公司
- 栗鉄(上海)貿易有限公司
- Readco Kurimoto, LLC
- Kurimoto USA, Inc.
- KURIMOTO (PHILIPPINES) CORPORATION